「唐丹希望基金」EEC 通信 128 号 2022-7
－唐丹小中学生に届ける鎮魂と平和の思い－

心の旅「鎮魂と平和」

―金沢市から浅野 冨治男さん、唐丹町訪問―

創作加賀友禅絵本　二作携えて

加賀友禅作家 浅野 冨治男さんは、東日本大震災 2 年目に当たる 2012 年 4 月、自作の木彫り兎 500 個を持って被災地を訪問し、出会った人々に「木彫り兎」を指導するなどして、20 日間ほど滞在しました。その間、唐丹小中学校を訪問し、「元気に育ってほしい」との思いで、子供たち全員に 300 個（1 人 2 体）の兎を送り、金沢に帰りました。

この度、震災当時の事を思い浮かべ、出来れば、唐丹の生徒さんと共に木彫りの兎を作る（一部の作業だけでも・・・）機会を作れないかとの思いで、10 年ぶりに唐丹小学校を訪れました。ところが、あいにくのコロナ禍で、生徒さんとの接触はおろか、学校の中にも入れず、校長先生と玄関での挨拶のみでした。(6 月 23 日浅野富治男)

この経緯を知った、唐丹町片川に住む河東智子さん（主任児童委員）が地区の健康教室の後、浅野氏の作品鑑賞と創作友禅絵本の読み聞かせ会を企画し、浅野氏をお迎えしました。

「浅野 冨治男さんの作品鑑賞と創作 加賀友禅絵本の読み聞かせ会」

日時：2022 年 6 月 30 日 11 時～　　会場：釜石市唐丹町片川集会場

内容

◆創作加賀友禅絵本の読み聞かせ

1、『パンダ林のさかさま池』　　2、『赤い鳥の話』

「友禅絵本について」・・・切り絵仕立てでスケッチブックに描いていた創作絵本を、この度の唐丹訪問を機に、絹の反物に友禅染めの技法で表現しました。今般初公開。この絵本を通し、子供たちに物語の面白さと同時に、日本の伝統工芸「加賀友禅」の奥深さを感じてもらいたいとの思いで仕上げた、渾身の作品です。

◆加賀友禅暖簾７本・タペストリー３本

家族に、自分の仕事を残すために作った作品の中から数点展示。

◆「木彫り兎の物語」

還暦を機に身近にあったカッターナイフを使って、３ｃｍ角の木片で兎を彫ってみた。１年半が経ち卯年になり、そろそろ、人前にと思っていた時、東日本大震災が起きた。約１年後、復興の願いを込めて５００個程の兎を持って、子供達や出会った人たちに渡したのが物語の始まりとなった。

今回、兎に緻密な線で描いた「友禅柄」の着物を着せた兎のストラップを持参。

加賀友禅作家 浅野冨治男さん「作品鑑賞会」

華やかな加賀友禅に大歓声が
湧き上がりました！

「見るもの全てに、驚きの眼差しが・・・
わくわく、どきどき、大感激！」

浅野さん　有難うございました。

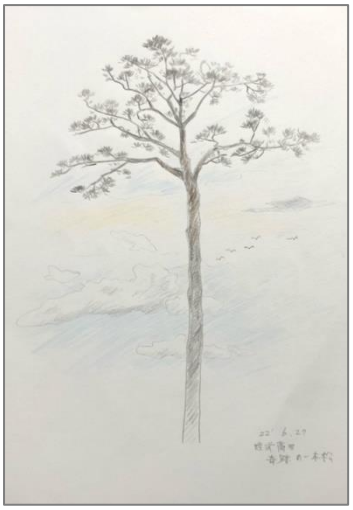
童話『赤い鳥の話』　加賀友禅絵 →

「木彫り兎」

← 童話『パンダ林のさかさま池』　加賀友禅絵

四度目の陸中の旅を終えて

浅野 冨治男



高い防波堤が出来、内側には新しい街並みが出来つつある三陸。「整備されましたね」と言うと「海が見えなくなりました」と返って来ました。一方、この風景が当たり前に育った子供達には、これが郷里なのですね。

“コロナ禍“という世相の中「無謀かな」と思いつつ、友禅染、木彫り、切り絵、絵本などを車に積み、来年の干支である「兎を一緒に作ってみませんか？」と呼び掛けながら旅をしようと金沢を出発しました。しかし、コロナという感染症はそうさせてくれませんでした。

-陸前高田・奇跡の一本松（6 月 27 日）-

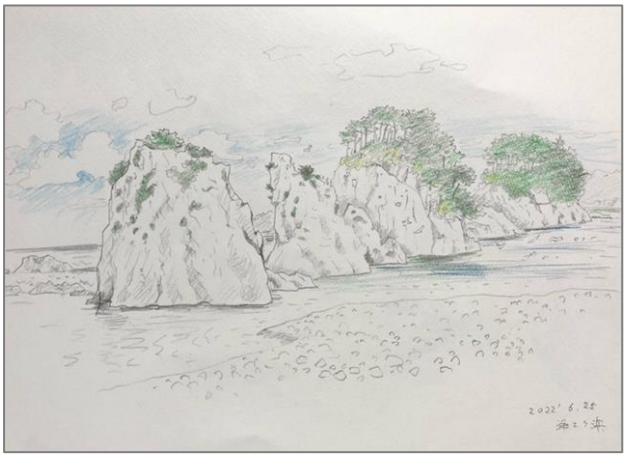
高舘千枝子さんにお会いし、旧知の友のように話せた事、そして、唐丹では、高舘さんから紹介していただいた河東智子先生はじめ 25 名（内児童 2 名）の皆様に作品を披露できた事は、何よりの喜びとなりました。

十年前、初めて訪れた時は、スケッチはおろか写真すら撮る気分では有りませんでしたが、今回は、陸中海岸（浄土ヶ浜、碁石海岸）、厳美渓、毛越寺、中尊寺など写生する事が出来ました。

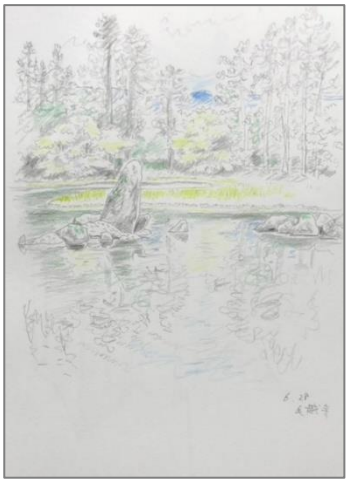
「つきつめて ものを思うは すべなかり

おおよそにして すぎゆくものを」　　中村華子（アララギ派 歌人 雅号 文女 あやめ）

釜石を訪ねる度に訪れる、釜石大観音の側にある「大平公園」という高台に登る途中にある石碑に刻まれた歌です。この高台から朝日を眺めるのが好きです。復興する三陸の地に吹く心地良い風を肌に感じて帰路に着きました。



-宮古・浄土ヶ浜（6 月 25 日）-



-平泉・毛越寺の庭園（6 月 28 日）-

【浅野富治男さん紹介 URL】

（昭和の加賀友禅（７）　浅野富治男・春秋花に鳥模様　色留袖　｜　バイク呉服屋の忙しい日々（819529.com））

加賀友禅作家　浅野冨治男 略歴

昭和 24 年　　石川県羽咋（はくいし）市に生まれる。（現住所：〒921-8002 石川県金沢市玉鉾 2-223 ）

43 年　　石川県立羽咋高等学校卒業、百貫俊夫氏に師事し、友禅業界に入る。

47 年　　浅野染工房として独立。

石川県現代美術展　初入選（日本画）

以後、入選 5 回、受賞 1 回

52 年　　欧州 7 か国 3 週間の写生旅行。

（ギリシャ、オーストリア、イタリア、スイス、フランス、スペイン、イギリス）

53 年　　加賀染協議会にて知事賞。以後、受賞 2 回。

56 年　　日本伝統工芸展初入選。

58 年　　日本伝統工芸染織展初入選。

平成 元年　　日本伝統工芸染織展　金沢市長賞。

2 年　　献上短冊箱　内張り 5 点作成。

13 年　　羽咋市文化会館で陶芸家と二人展。

19 年　　日本橋ギャラリー「フロールエバー」でフラワーデザイナーと二人展

他 個展、工房展など 5 回。

21 年　　木彫り兎作成開始。

24 年　　東日本大震災被災地慰問：report_027.pdf (plala.or.jp)

26 年　　東日本大震災被災地訪問。

令和 3 年　　岩手県内、家族旅行。

令和 4 年 6 月 21 日～7 月 1 日

東日本大震災被災地訪問。

【浅野冨治男さんの活動】

１「手彫り兎」制作 13 年：usagi.pdf (eec-2020.com)

２創作童話：『パンダ林のさかさま池』『赤い鳥の話』・・・加賀友禅で表現された絵が芸術的。

３巻紙エッセイ―、小説、童話　①『**陸中海岸を訪ねて**』②『不忍』前編・後編　③『3 人の夏休み』④『やっちゃんの花屋』⑤『神木に登った少年』⑥『トン トン トン』⑦『ピピの鈴』。これらの作品は、障子紙に手書きしたもので、1 作品 1 本の巻紙になっています。浅野作品のファン達が回覧しています。この度の唐丹訪問を機に、東日本大震災被災地訪問記**『陸中海岸を訪ねて』**が唐丹町内を巡回しました（7/4～7/31）。被災地訪問 20 日間の滞在記には、あの当時の被災地で暮らす人々の心情と、荒涼とした景色を伝える作品になっており、10 年を経た今、当時の被災地の姿を伝えるエッセイ―です。「２０１１・３・１１」が浅野さんを東北へと駆り立てた、止めようのない熱い思いが伝わってきます。回覧を希望する方は、浅野冨治男さん（住所は略歴に記載）か、唐丹希望基金 高舘千枝子に連絡下さい。（送料の負担をお願いします。）